



寄託史料紹介 「伊那蚕業合名会社史料」を読み解く

「伊那蚕業合名会社史料」は、小島秀一社長の御遺族より、2017年に、本研究所に寄託されたものであり、経営諸帳簿を含む、良質な史料群です。伊那蚕業は、1915年に座光寺村に、設立された蚕種会社です。この時代は、蚕種製造の技術革新が進められ、巨大製糸企業により、零細な蚕種自営業は淘汰されていく傾向にありました。こうした時代の課題に対処して、伊那蚕業は、地域社会の「顔の見える人間関係」に依拠して、蚕種自営業者を分場に組織化することにより設立されました。

伊那蚕業は、1920年代には、蚕種保護のための冷蔵庫の導入や、沖縄に蚕種分場を設けるなど、先駆的な設備投資をおこない、下伊那の優良繭生産を先導していきました。その後、下伊那の中心産業であった蚕糸業は、1929年からの世界大恐慌により、大きな打撃を受けました。世界大恐慌への対応策として、下伊那の蚕種業者は、大龍社(たいりゅうしゃ)という共同施設組合を、全国に先駆けて、1937年に設立し、蚕種業者の統合を達成しました。こうして、伊那蚕業も大龍社に統合されました。戦時下においても、下伊那では蚕糸業が存続し、戦後になると、大龍社は全国一の蚕種生産組合へと成長していきました。



小島家蚕室 (小島久秀氏所蔵写真)

本史料を読み解いていくと、以上の伊那蚕業の歩みが、相互融通的な要素を残した個人金融や、地元の製糸会社の金融への依存から、銀行中心の金融への転換過程でもあったことが判明してきます。

(特任研究員 田中 雅孝)

地域史講座を開催しました

「天竜川をめぐる村むらの争い — 旧川路村文書を素材に —」

2月1日に川路公民館にて地域史講座を開催しました。研究員の羽田真也が、「天竜川をめぐる村むらの争い — 旧川路村役場文書を素材に —」をテーマに、江戸時代の天竜川右岸(下川路村・時又村)と左岸(今田村)の争いにかかわる史料を検討し、村むらと天竜川との関係やその変化について報告しました。

天竜川やその河原では、17世紀半ば以降、耕地の開発や川除(水防施設)の普請が盛んに進められましたが、それに伴い、右岸と左岸の間に対抗関係が生み出されていくことになりました。宝暦3(1753)年、今田村が新設した川除をめぐる、下川路村・時又村と今田村との間で大規模な争論がおこりますが、これは17世紀以来の動向の到達点を示しているといえます。

また、この争論以降、河原石の採取権をめぐる争いも、両者は争うようになりました。その背景には、川除普請における石の需要があったと考えられます。本来、右岸と左岸の間には、天竜川の本流を村境とする認識とともに、河原石はどの村にも独占されない(「勝手次第」という通念が存在していたようですが、こうした18世紀半ばの争論の中で通念は否定されていきます。その結果、河原石の採取権も含んだ新たな村境、しかも天竜川の流路の変化に左右されない固定的な村境が新たに設けられることになりました。



以上が報告の内容です。会場では宝暦期の争論にかかわる絵図を展示し、報告後に解説も行いました。たくさんの方にご参加いただき、有意義な講座となりました。

(研究員 羽田 真也)

募集します!

市民研究員候補・歴史研究活動助成・飯田歴研賞2020候補作品

歴史研究所では、飯田・下伊那を対象とした地域史研究のさらなる発展を目指して、研究者の養成、研究活動への助成、優れた研究成果の表彰を行っています。2020年度も市民研究員候補、歴史研究活動助成、歴研賞候補作品を募集しますので奮ってご応募ください。

市民研究員候補募集

2年間の市民研究員養成課程の中で、飯田・下伊那の地域史にかかわるテーマの研究に取り組んでいただきます。研究員の指導のもと、各種の教育プログラムを通して、歴史研究の基礎を学びながら、修了論文の作成を目指します。これまでに、「平岡ダム建設と外国人強制労働」「飯田の街角の文字デザインと歴史」「信南自由大学運動の意義」「旧川路村に残された軍事郵便」に関する研究などが行われました。市民研究員に認定された後は、引き続き研究を進めていただくとともに、歴史研究所の調査研究活動にもご参加いただけます。

募集人数	若干名
応募方法	研究テーマ・研究計画・志望動機を歴史研究所へ提出してください。 (様式は飯田市ホームページ「飯田市歴史研究所 市民研究員候補の募集」よりダウンロードできます。)
募集期間	2020年5月1日(金)～7月31日(金) (必着)
審査結果	書類審査と面接を行い、8月末日までに採否をお知らせします。

2020年申請 研究助成募集

飯田・下伊那を対象とした歴史研究に取り組む団体、及び大学生・大学院生に対し、研究経費の助成を行います。近年では、「ミチューリン会機関紙に見る農業技術運動」「近世の借屋人の生活と移動」「消防組・軍人会史料と座光寺の近代」などの研究活動に助成を行いました。

応募資格	①飯田市内又は下伊那郡内に住所を有する団体(研究団体)、②大学の卒業論文又は修士論文を作成するための研究を行う者(研究者)
研究期間	2021年2月まで(2月末までに実績報告書を提出)
助成金額	研究団体及び卒業論文作成研究者:10万円以内、修士論文作成研究者:15万円以内(2年間の場合)
応募方法	助成要項をご確認のうえ助成申請書・研究計画書を歴史研究所へ提出してください。(助成要項及び様式は飯田市ホームページ「飯田市歴史研究所 歴史研究活動助成」にあります。)
募集期間	2020年5月1日(金)～6月30日(火) (必着)
審査結果	書類審査などを行い、8月末日までに本事業に適した研究が審査します。
助成金の交付	助成金の交付は、実績報告書類や成果発表などにより、本事業の目的や助成条件に適したものが審査し、適当と認められたものについて、2021年4月まで行います。

飯田歴研賞2020候補作品募集

歴史研究所では、前年度に発表された飯田・下伊那の地域史研究に関する優れた作品に歴研賞(著作部門、論文部門)・奨励賞を贈っています。昨年度は、大日方悦夫氏『満洲分村移民を拒否した村長 一佐々木忠綱の生き方と信念』(信濃毎日新聞社、2018年)ほか4作品が受賞されました。自薦・他薦を問いません。

対象作品	2019年4月～2020年3月に刊行・発表された著書・論文(自費出版を含む)
募集期間	2020年5月1日(金)～6月30日(火)(推薦作品を持参または郵送してください。)

※詳細は飯田市ホームページ「飯田市歴史研究所」をご覧ください。

アメリカで思う歴研のオリジナリティ

竹ノ内 雅人

2008年4月、研究員だった多和田雅保さんの後任として着任してから5年間、歴史研究所でお世話になったことは自分にとって大変幸運であったと感じています。

それまで、大学の調査で飯田を訪れたことは何度かありました。とはいえ、いざ生まれ故郷ではない土地に住み、地域の人たちと関わりながら、仕事をするのは初めての経験、おまけに南国育ちの自分は、飯田の冬の寒さを耐えることができるのか？ などと不安を抱きながら、着任のため新宿発の高速バスに揺られていたことを思い出します。

私の在任中は、研究所の出版事業が本格化した時期でした。史料調査の報告書出版、飯田下伊那史料叢書の出版に続き、『飯田・上飯田の歴史』出版という大きなプロジェクトが動き出し、3年間はこの事業でかきりぎりとなりました。この5年間の仕事に、スタッフをはじめとする地元の方たちと交わした会話は、自分にとって今でも大きな財産となっています。飯田下伊那の歴史的な話だけでなく、地域の特徴や社会状況、他愛のない話まで多種多様な意見を聞くことで、研究書や自治体史に書かれていることを実感として受け入れるとともに、自分が生活する社会を研究の対象とする意義は何か、どんな貢献ができるのか、ということ自身の問題として意識するようになりました。大事な歴史研究の軸を、飯田で育てて頂いたといっても過言ではありません。

現在職場とするアメリカで日本史の報告を聞くと、世界的に関心が高い環境やマイノリティなどの問題を取り上げて、自分の考えた論理を、日本の事例としてなぞらせるだけの研究が少なくありません。日本の、特に江戸時代以降の史料は、世界的に見ても豊富に残されています。豊富な史料を根拠として、歴史や社会の本質を浮かび上がらせる研究は、日本ならではのものです。全国的にみても特色ある史料が多く残された飯田下伊那で、実証的な歴史研究を行うことは、日本や世界の歴史研究にとっても大切なことなのです。

(たけのうち まさと イェール大学／歴史研究所調査研究員)

地域史ゼミの紹介とゼミ生募集

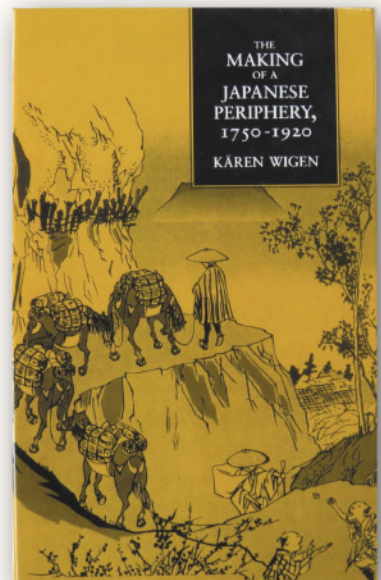
毎月第2金曜日の午後6時半から2時間程度、地域史ゼミを開催しています。現在は、アメリカの歴史学者カレン・ウィーゲンさんの著書The Making of a Japanese Periphery 1750—1920 (University Of California Press, 1995) (「日本における「周縁」の形成：1750年から1920年まで」)を英語で輪読しています。本書は、下伊那の近世から近代の歴史を分析し、日本の近代化を理解する手がかりを得ようという問題意識に基づいて執筆されました。下伊那は、近世には交通の要所として独自の存在感を持っていました。明治維新を経て近代化が進む中で、下伊那は東京を中心とする新しい日本の周縁地域の一つへ再編成されていきました。その変化の過程を、歴史学と地理学、近世史と近代史の双方の観点から分析する、大きな問題意識に基づいた大変に面白い内容の本です。

昨年からは輪読を開始し、現在は序章を読み終えつつあるところです。今年度は、江戸時代後半の下伊那を分析する章に差し掛かっていく予定です。ゼミは、担当研究員が作成した和訳をもとに、皆で英文を四苦八苦しながら内容を読み解き・理解していくものとなっております。新年度ですので、ご興味を持った方はぜひこの機会にご参加ください。英語や歴史に自信のない方も大歓迎です。

担当者：太田仙一(歴史研究所研究員)

開講日時：毎月第2金曜日18:30～20:30

会場：歴史研究所研修室



飯田アカデミア2020第91講座

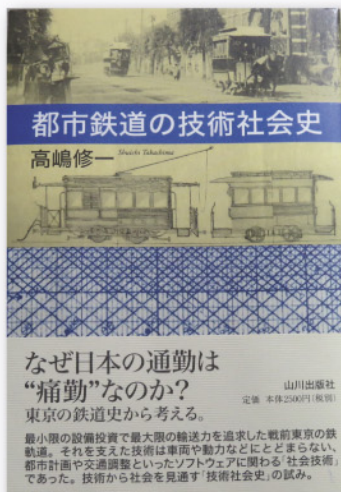
たかしま しゅういち

講師 **高嶋修一**さん(青山学院大学経済学部教授)

会場 **飯田市役所 C棟3階会議室**

資料代 **500円**※高校生以下無料

※1講義のみでもご参加いただけます。
どなたでもお気軽にお越しください。



今回のアカデミアは、青山学院大学経済学部教授で日本経済史を専門とする高嶋修一さんを講師にお招きします。高嶋さんは主に近現代の東京をフィールドに、都市社会がどのように形成・変化してきたのかを研究されてきました。また、鉄道にも精通されており、鉄道を題材とした著作も多数発表されています。今回のアカデミアでは、最新刊の『都市鉄道の技術社会史』（山川出版社、2019年）をもとにお話しいただきます。

日本の大都市では通勤が「痛勤」と言われるほどの大混雑が日常化しています。1日2時間を通勤に費やすとして12年勤めれば通勤時間は丸1年になり、一般的なサラリーマンは定年までに約3年を満員電車のなかで過ごす計算になります。なぜこのようなことになったのでしょうか。20世紀初頭の東京を中心に、鉄道運営に関する「技術」の歴史に着目して分析がなされます。それを通して、近現代日本社会の特質が見えてくるでしょう。

7月4日 土

第1講 13:30~15:00

第2講 15:20~16:50

7月5日 日

第3講 10:00~11:30

第4講 13:00~14:30

歴研ゼミ&ワークショップ

4月・5月の予定 会場:歴史研究所 研修室

受講生募集!

スタッフとともに歴史を
学んでみませんか。



満洲移民研究ゼミ

担当:本島和人
齊藤俊江

第104回 4月4日 / 第105回 5月9日
(第1土曜日) 10:00~11:40

地域史ゼミ

担当:太田仙一(研究員)

4月10日 / 5月8日
(第2金曜日) 18:30~20:30

近世史ゼミ

担当:羽田真也(研究員)

4月22日 / 5月27日
(第4水曜日) 18:30~20:30

近現代史ゼミ

担当:田中雅孝(特任研究員)

4月11日・25日 / 5月23日
(第2・第4土曜日) 10:00~11:40

建築史ゼミ

担当:福村任生(研究員)

4月17日 / 5月15日
(第3金曜日) 19:00~21:00

思想史ワークショップ

市民の皆さんが自主的に学び合う場

4月1日・15日 / 5月20日
(第1・第3水曜日) 19:00~20:40

定例研究会

会場:歴史研究所研修室

時間:14:00~16:00

明治期の農村景観を考える
—旧川路村役場文書の分析から—

開催日:**4月18日** 土

報告者:**福村任生**

(歴史研究所研究員)

国策の線に沿って

—「社会主義者」

羽生三七と満洲移民—

開催日:**4月25日** 土

報告者:**本島和人**

明治期における
王子製紙の下伊那への進出

開催日:**5月30日** 土

報告者:**太田仙一**

(歴史研究所研究員)

新型コロナウイルスの影響により、中止または延期することもあります。

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。TEL:0265-53-4670

開所時間:午前9時~午後5時 休所日:日曜日・月曜日・祝日・12月29日~1月3日